令和７年７月定例記者会見要旨（令和７年７月２９日）

１．稼働開始から７０年以上が経過する常盤町の「田尾火葬場」について、新設計画の進捗状況はどうなっていますか。２０２２年３月に基本構想を策定し、２０２５年度に着工、２０２７年度中に供用開始を計画していると思いますが、構想と実際のスケジュールに開きが出ているのでしょうか。遅れている場合、その程度と今後の見通し、また、なぜ遅れているのかを教えてください。費用が膨らむ見込みも出てきているのでしょうか。

本市は、新火葬場整備について、学識経験者等を委員とする「新火葬場整備検討委員会」においてご審議いただき、令和４年３月に「新火葬場整備基本構想」、令和５年３月に「新火葬場整備基本計画」を策定し、令和６年２月に、現火葬場前を建設候補地とする旨の報道発表をいたしました。

その報道発表を受けた地域住民からは、近隣に住宅がある中での建設や、建設候補地の報道発表のあり方についてなどのご意見をいただいており、新火葬場の建設に関しましては、大きな関心とともに、さまざまな不安や疑問を持たれているかたもおられると思っております。

このような地域住民のご意見につきまして、真摯に耳を傾け、協議を重ねてきており、現在も継続して行っているところであります。

本市といたしましては、新火葬場整備実現に向けた今後のスケジュールの具体をお示しするのではなく、今後とも、地域住民の意見をお聞きし、丁寧に対話を重ねて信頼関係を構築しながら、より良い方向性を見出せるよう努めてまいります。

２．教員によるわいせつ事件が全国で相次いでいます。学校現場での被害防止の難しさも指摘されています。他県の市教育委員会では「校内死角改善確認シート」というものを作成し、校内を巡回して点検する取り組みもあるほか、私物スマホの教室への持ち込み禁止、私物カメラの利用禁止などの対策も行われているようです。坂出市では、これらの流れを受けて、新たな取り組みを進めたり、強化したりしているものはありますか。

教員によるわいせつ事件が全国的に相次いでいることは、教育現場としても極めて深刻に受け止めており、本市としても教職員による不祥事の根絶に向けて、これまで以上に対策を徹底しております。

まず、本市では、県教育長からの通知文および教職員へのメッセージを受け、すべての校長に対して、十分な時間を確保した上で、全教職員を対象に具体的な指導を行うよう指示しました。これを受けた校長は、教職員一人一人と面談を行うことで、教職員の声を把握し、指導や環境改善につなげています。

さらに、市教育長もすべての校長との面談を実施し、各校での取り組み状況や教職員との面談結果について直接確認し、学校ごとに実効性のある対策が講じられているかを把握しています。

学校現場における具体的な防止策としましては、校内に不審なカメラ等が設置されていないか定期的に点検し、個人用スマートフォンやカメラの校内での使用が誤解を招くことにつながることについて改めて教職員に指導しています。さらに、中学校では、保護者の皆様の不安を払拭するためにＰＴＡの会議等の場を通じて、学校での具体的な取り組みを丁寧に説明し、理解と協力を得るよう努めています。

今後も、他自治体の取り組みも参考にしながら、教職員一人一人の意識改革と学校現場での組織的な防止策をさらに進め、子どもたちが安心して学べる教育環境の確保に全力で取り組んでまいります。